

特集

緑内障と全身因子：最新情報

序 論

福地健郎*

今回の特集は「緑内障と全身因子」です。緑内障と全身因子を考えると、まず2つの視点が必要だと思います。1つは緑内障による視神経障害（緑内障性視神経症、glaucomatous optic neuropathy：GON）のメカニズムにどのように関与するのかということ、もう1つは緑内障治療への応用は可能かということです。GONのメカニズムへの関与についても、眼圧を介して関与するのか、たとえば視神経の組織環境への影響などの疾患背景として関与するのかのいずれの可能性もあると思います。

少なくとも現時点でエビデンスのある緑内障治療は眼圧下降治療のみですので、まず眼圧を適切に管理するというのは、緑内障治療の基本だと思います。一方で、緑内障の発症と進行にはさまざまな危険因子があることがわかっています。これらには、高眼圧、乳頭出血、角膜厚・角膜ヒステレシスなどの眼局所に関わる因子がリストアップされている一方、血圧や糖尿病といった全身因子が挙げられています。また、緑内障と全身因子の関係は、古くからある研究テーマで、血圧や糖尿病以外にも多様な全身因子が、GONに関わっていることが、多彩な研究データによって示唆されています。近年、これらの話題についても各領域の進歩に伴ってさまざまな情報が蓄積されてきて

います。そこで、この特集では、「緑内障と全身因子」に関して、現状を整理し、最新情報とともに総括してみようということを目的として、6つのテーマについて、それぞれエキスパートの先生に解説をお願いしました。

木内先生には、最初に総合的な立場から運動・体型・食事に関して概説していただきました。緑内障の外来診療の場で、しばしば患者さんから生活習慣に関する助言を求められますが、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。清田先生には血圧管理に関して、楠原先生には糖尿病に関して、最新情報とともに詳細に解説していただきました。高血圧、糖尿病は全身的慢性疾患の代表で、いわゆる common disease です。多くの緑内障患者さんが併せて治療を継続されており、疾患そのものだけでなく、その治療も互いに影響を与えている可能性があります。佐藤先生に解説していただいた脂質代謝異常に関しては、従来の観察研究に加えて、メンデルランダム化法による最新データとともに、緑内障のリスク評価精度の向上への期待について述べていただきました。柴先生には睡眠と睡眠時無呼吸症候群(SAS)について、吉田先生には認知症・認知機能との関連について解説していただきました。緑内障の外来診療をしていてしばしばSASを合併している患者さんに遭遇します。病歴としてチェックしておくべき項目のひとつだと思います。また、高齢の緑内障患者さんにとって認知症・認知機能はより重要な項目と思

*Takeo Fukuchi 恒仁会・新潟南病院眼科(新潟県)/順天堂大学医学部附属静岡病院眼科

います。

この特集を通して読むことは、緑内障に関与する全身因子について改めて興味を持っていただき、総合的に知る貴重な機会になることと思います。これらの情報は、既に日常診療の場で、緑内障患者さんへの生活指導、他科治療への助言という点

で応用することが可能です。さらに将来的には、全身管理の指針や眼圧管理とは別な治療が提案されることによって、緑内障治療の新しい展開が期待できるのではないかと思います。ぜひ注目していただきたいと思います。